

一般社団法人日本溶接協会 創立70周年を祝して

経済産業省 大臣官房審議官（産業技術環境局担当）

渡邊 昇治

一般社団法人日本溶接協会の創立70周年を心よりお慶び申し上げます。

一般社団法人日本溶接協会は昭和24年に戦後の産業復興を目的に創立されて以来、関係業界との緊密な連携の下に、我が国の溶接技術の進歩向上と国際交流に多大な貢献をされてきました。

「70年」といえば、経済産業省では昨年、昭和24年の制定以来、70年ぶりにJIS法の抜本的改正を行いました。世界経済が急速にグローバル化する中で、グローバル市場における我が国企業や産業の競争力強化の観点から、標準化の対象として新たにデータ、サービスを追加しました。また、法の目的に国際標準化の促進を盛り込み、事業者には産業標準化又は国際標準化に関する業務に従事する者の適切な処遇の確保に努めるよう求めるなどしております。このような中、我が国溶接界の技術や標準化の中核機関としての貴会の役割が益々重要になってきていると考えています。

貴会は、JISや日本溶接協会規格（WES）の制定・改正・見直しにおける審議だけでなく、溶接の材料や試験方法に関するISO規格の制定・改正、およびJISのISO整合化にも取り組まれています。国際標準化については、アジア溶接連盟（AWF）の協力を得て、ISO規格に我が国の意見を反映させるための新たな体制づくりに積極的に取り組まれています。

平成26年には、米国・中国など13か国を招いて「ISO/TC44TOKYO会議」を開催し、溶接プロセス及び関連作業の国際標準化に取り組むISO/TC44の標準化活動の国内審議団体として、社会インフラの発展に貢献する溶接技術の安全や品質の向上に取り組んでこられました。

また、国際教育の観点から、海外での溶接管理技術者の教育・認証において、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、台湾、ミャンマーで現地溶接協会による研修会および評価試験を実施され、積極的な国際交流を図られています。

貴会のごこうした活動を通じ、我が国の溶接技術が世界に普及しつつあります。

貴会は人材育成にも力を入れています。業界団体の要望も踏まえて、アジア諸国での溶接技能者資格認証の試験を行うことで、発展途上国への技能移転を促進し、海外で活躍する日本企業を下支えされています。加えて、溶接の将来を担う人材を確保するため、外国人技能実習生の受け入れ支援や若年者・女性への裾野の拡大に努められています。

また、貴会は毎年全国溶接技術競技会を開催されていますが、これにより溶接技術水準の向上が図られ、我が国産業の発展に大きく寄与しています。経済産業省も、平成16年に経済産業大臣賞を創設し、溶接技術水準の向上を支援しています。

最後に、創立後70年間の貴会の輝かしい業績と溶接界の発展を心からお祝い申し上げますとともに、貴会が今後とも溶接界のより一層の発展に寄与され、広く産業界の期待に応えられるよう希望して祝辞とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人溶接学会

会長 篠崎 賢二

一般社団法人日本溶接協会が創立70周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴協会は創設以来永年にわたって、溶接技術の普及や啓発、検定・認証業務による溶接技能者や溶接技術者の育成、溶接技術の工業標準化並びに溶接技術情報の提供などを通して、我が国の溶接界を牽引してこられました。このようなご努力に対しまして、溶接学会を代表し、心より敬意を表します。

この10年間を振り返りますと、10年前の2009年初頭は、リーマンショックにより我が国の製造業では生産活動が大きく低下し、さらに2011年3月の東日本大震災の発生により特に輸送機械工業は記録的な落ち込みとなり、大きく景気が後退しました。その後、2013年以降はアベノミクスの効果が表れ始め、さらには2020年の東京オリンピック開催決定と相まって、特に建設業界は活況を呈し始め、それにつられ製造業も持ち直して景気は良くなってきています。一方、製造業においては、人手不足が深刻となりつつあり、溶接技術者、溶接技能者の不足も大きな問題となっています。この解決策の一つとして、外国人技能実習生の採用、本年4月から外国人特定技能者の採用が開始され、溶接界も外国人に頼らざるを得なくなりつつあります。このような背景で、日本の溶接技術の信頼性を確保するには、これら外国人の溶接管理技術者や溶接技能者の認証制度を通じて、質の高い溶接技術、溶接技能を有する外国人人材を確保する必要があります。貴協会の果たす役割は従来に増して重要になるものと考えられます。

さらに、ドイツがIndustry 4.0コンセプトを唱え、ものづくりのデジタル化、モジュール化が急速に発展し始め、IoTやAIの活用がものづくり現場で積極的に取り入れられるようになりました。溶接分野でも、各種溶接機器にはこれらの技術が実装されるようになりました。このように、溶接分野におきまして、我が国が他国を凌駕するものづくりを維持するためには、高いポテンシャルの技術発展が必要となります。

2016年10月に溶接学会と貴協会が、日本溶接会議の傘下で事業連携をスタートしました。このことは、両会にとりウィンウィンの関係を生み出す大変良い機会であり、すでに、①人材育成・教育連携、②研究連携、③新規分野開拓連携、④広報・出版連携の四つの分野での連携事業を検討する事が合意されています。溶接技術を学問的観点より支える溶接学会と実践的観点を重視した貴協会が、密なる連携を保って協調することが溶接技術のさらなる進化に不可欠といえます。

創設70周年を機に日本溶接協会が今後も引き続き日本は言うに及ばずアジア地域を中心としたグローバルな溶接界の牽引役としてさらに発展されることを祈念して、祝辞とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人軽金属溶接協会

会長 山内 重徳

一般社団法人日本溶接協会の創立 70 周年を心からお慶び申し上げます。

貴協会は、昭和 24 年の創立以来永年にわたって、溶接技術の検定、認証事業による技術者、技能者の育成、ものづくりの基本となる国際規格の ISO、IEC、国内規格 JIS の規格案の作成と制定規格の維持、そして様々な最新技術情報の発信を通して、我が国の溶接技術の進歩向上に大きな成果を上げてこられました。また、グローバルな牽引役として、世界の溶接界の発展にも寄与されてこられました。貴協会における、このような、グローバル規模での社会へのご貢献に対しまして、心から敬意を表します。

近年、国内外の社会の変化も著しく、国内においては、度重なる自然災害、少子高齢化の進行、そして、『平成』から『令和』へ、また世界では、地球環境問題、中国の経済成長、英国の EU 離脱問題、中東問題、移民問題、保護主義化などに直面してきました。そして、AI、IOT の進展や、自動車分野の劇的な変化（コネクテッド・電動化・自動運転化など）は近未来の社会の大きな変化を予感させています。このような社会背景のなか、貴協会では、広くグローバルな視点を持ちながら、溶接界の発展のためにご尽力されております。例えば、国内では関係省庁とも連携した溶接技能者の育成のための様々な施策など、課題に真正面から取り組まれ実行されています。また、国外でも、東南アジアでの技能資格認定推進事業など、具体的な成果を出されてきました。これら貴協会の活動とその輝かしい成果に深甚なる敬意を表します。

私共、軽金属溶接協会も軽金属製品分野での溶接・接合に関し、技術者育成と製品の信頼性の向上をめざしております。貴協会には、国内外の規格、工業標準化や技能検定の事業のサポートのみならず、日々の組織運営にわたりいろいろとご助言、ご協力を賜っております。これまで賜ったご高配に、心から感謝申し上げます。今後も、私共軽金属溶接協会は日本溶接協会と共に日本の産業界、学界、そして社会へ貢献していく所存です。

結びに、創立 70 周年の日本溶接協会の偉大なる業績と溶接界の発展を心からお祝い申し上げますとともに、今後も、世界の溶接界の中核として、広く社会の期待に応えていかれることを祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。



INTERNATIONAL INSTITUTE OF WELDING
A world of joining experience

The International Institute of Welding (IIW) sincerely congratulates the Japan Welding Engineering Society (JWES) on the occasion of its 70th anniversary since incorporation in November 1949.

Over this time the JWES has both successfully supported the development of welding and joining technologies and their implementation in Japan and also contributed significantly to world knowledge and cooperation within the welding industry.

An important focus of the JWES throughout this period has been the promotion and sponsorship of research and investigation. Through active participation in IIW Technical Working Units delegates and experts from Japan have not only shared their outcomes and expertise but also gained knowledge and benefited from benchmarking and networking within the global welding community.

Recognising the importance of education and training in welding and related fields at all levels, JWES has supported and promoted qualification at a national level and encouraged youth participation in IIW Young Professional activities. Japan also participates in the international IIW qualification system through JWES as an IIW Authorised Nominated Body-once again benchmarking Japanese industry with the world and contributing to conformance and safety in welded construction.

JWES has effectively developed and promoted technical and certification standards for use by its own industry and, through IIW's role as an ISO international standardising body, Japanese delegates to IIW have also contributed significantly to harmonisation of standards on a global basis.

Japanese involvement in IIW has been strong throughout the years, with a large delegation to each IIW Annual Assembly and many delegates chairing IIW Working Units. Annual Assemblies have been hosted by JWES in Japan in 1969, 1986 and 2004, with preparation under way for the 2022 Annual Assembly in Tokyo. Japan has also been well represented in leadership positions, with Prof. Yuzuru Fujita, the first IIW President to be elected from an Asian country, in office 1996-1999.

IIW congratulates JWES for its continuing participation in IIW and its contributions to technology transfer and excellence in welding at national and international levels. In addition, the society should be commended for its vision and commitment to supporting future generations of welding personnel at all levels for the benefit of the global industry.

We are pleased to contribute to this commemorative publication and extend best wishes for successful celebrations of the society's 70th anniversary.

Mr Douglas R. Luciani
President, International Institute of Welding



Asian Welding Federation
Block 1003 Bukit Merah Central,
#04-16 INNO CENTRE
Singapore 159836

Subject : 70th Anniversary of Japan Welding Engineering Society

To : President & All Members of the Japan Welding Engineering Society

On behalf of the Asian Welding Federation (AWF) and all the members' societies, I would like to extend our heartfelt congratulations on the 70th Anniversary of the Japan Welding Engineering Society (JWES). It is indeed a milestone achievement which will be written down in history through your many years of successful contributions to the welding industry in Japan and the region in the areas of research and development, investigation application, training and certification.

Over the past years, JWES' academic achievements and industrial application of welding developments have made significant contributions to the growth of welding industry as well as the economy globally.

I believe the status of Japan welding industry will be greatly enhanced with the development of more innovative/ advance welding technology and supported by JWES as you continue to make progress over the years and inroad into the region.

I would like to take this opportunity to thank JWES for your contributions and active participations in the AWF activities since its formation. Together with JWES and all the members' societies, we can make AWF a great federation.

On this special occasion, may I wish JWES every success as you pursue your vision, mission and goals.

With warmest regards

Sze Thiam Siong
President
Asian Welding Federation
July 22, 2019
